

巻頭言 「忘れてはならない」

宇野 元

冷蔵庫にマグネットでいろいろなものをとめています。折々に見ることができるように。自治会の今月のカレンダー。ごみ出し用カレンダー。竹園版「牛肉のおいしい焼き方」。「Let's Try! かんたん体操」……。扉の片側の上の部分に、A4紙に印刷したバッハのカンタータの歌詞を掲示しています。これをときおり交換しては、そらんじています。「わたしのすべての行いにおいて」(BWV97)「深いところからわたしは呼びます、主よ、あなたを」(BWV131)「心と口と行いと生活」(BWV147)「神の時はいちばんよい時」(BWV106)「主をたたえよ、わが魂よ」(BWV69)……。歌詞の出だしが曲の題名になっていますが、バッハの音楽がいかに密接に聖書と結ばれているかが、ランダムに記すだけでもよくわかると思います。ある朝、朝食の準備のあいまに「主をたたえよ、栄光の力ある王を」(BWV137)をながめ、口ずさんでから、いつものように「日々の聖句」をひらくと、詩編103,1が。このような一致はめずらしくはなく、ありふれたことのように思われますが、ありふれた(ように思われる)奇跡、そう受け取らせていただきます。おもえば、日常のなかになんと多くの奇跡を体験していることか。けれども、ひととき驚いてはまたすぐに忘れてしまうことか。感謝を忘れないために、できれば書き留めておきたいものです。

「主をたたえよ、栄光の力ある王を」は、次のように始まります(この曲は今月の讃美歌『讃美歌21』第7番と同じ歌詞によります。原文のニュアンスを感じて戴けたら)。

主をたたえよ、栄光の力ある王を
わが魂よ、このことがわたしの切なる願いである
共に集まろう
詩編と豎琴よ、よみがえれ
この音楽を流れさせよう！

そして最終節。

主をたたえよ、わたしのうちにあるものよ、御名をたたえよ
息あるすべての者たちよ、アブラハムの子らとともにたたえよう
主は、あなたの光でいらっしゃる
わが魂よ、忘れてはならない
たたえの歌を「アーメン」で閉じるように！